

救急救命士がワクチン摂取の打ち手に! そんな技術あるの??不安...

市原市議会議員 **ますも誠二**

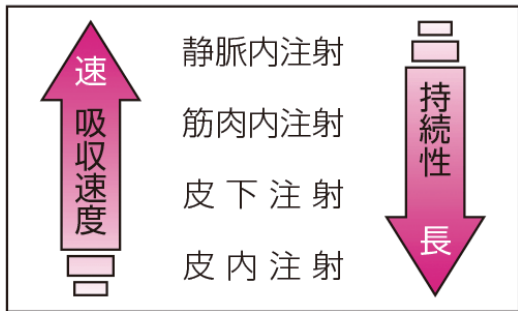


テレビ朝日 スーパーJチャンネルにて

新型コロナウイルスのワクチン接種をめぐり、政府は、救急救命士や臨床検査技師なども、新たな担い手として認められるか判断するため、厚生労働省で検討する事になりました。政府は、医師による接種に加え、担い手が確保できない地域では、特例で歯科医師も認めています。人口の多い都市部などでは、さらなる担い手の確保が必要となります。

先月24日、菅総理大臣は「救急救命士など、血液検査などで現実的に接種している団体とも最終的に打ち合わせをしている。数万人を確保し、派遣で

吸収速度と持続性

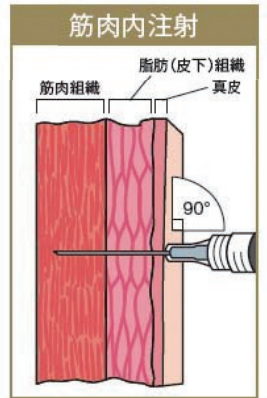
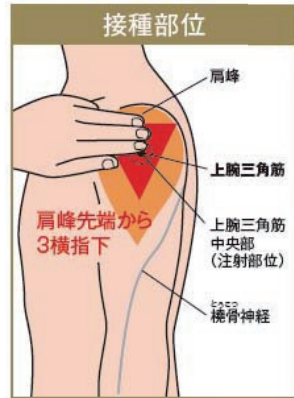


きるよう全力を挙げたい」と述べました。ワクチン接種は、医療行為にあたるため、医師法など法律で定められていることから、救急救命士などについて一定の条件をつけることで、議論されます。私も先月、テレビ朝日、日本テレビの取材に応じ、救急救命士が注射をする事について話しました。

さて、皆さん、医師による注射が当たり前の社会において、他の業種の人に注射を打たれるのはどうでしょうか。不安ですよね。

しかし、一言で注射と言っても、その目的に応じ、注射には

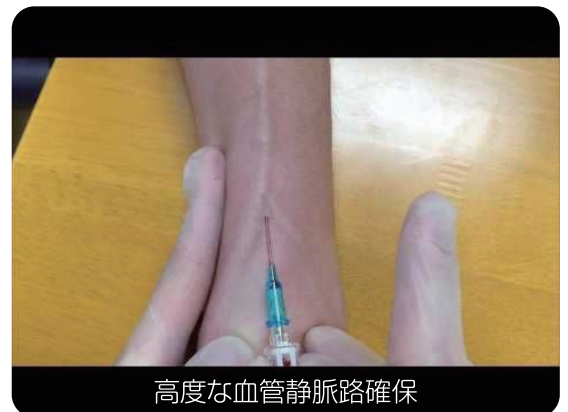
種類があります。救急救命士は心肺停止の患者や低血糖に陥っている重症患者に対し、一刻も早く血管(静脈)に注射し、緊急薬剤の投与や点滴などを行います。また、心肺停止の患者などは心臓が停止しているため、血管自体が虚脱(細くなる)しているため、その静脈を探しあて、細い針を入れるという技術は、非常に難易度が高い行為です。一方、ワクチン摂取のような筋肉注射とは、(1)筋肉組織は血流が豊富で免疫細胞も多く分布するので免疫が付きやすい。(2)皮下注射と比べて局所の反応(痛み)が少ない。(3)ワクチンの効果を高める成分が入っているため、皮下注射した場合、強い炎症を生じる可能性があるため、広い筋肉内に注射するものと、広い



ボランティアまでもが行なっています。

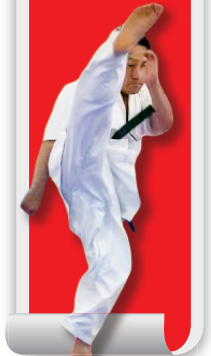
したがって、救急救命士の行う限られた静脈内に注射するものと比較するとご理解頂けると思っています。

臨床現場で、高度な血管静脈路確保を経験してきた我々救急救命士や、その訓練を積み重ねている救急救命士が、筋肉注射に対する一定のトレーニングをした上で、今回のワクチンの打ち手になる事は、今の社会にとってはとても必要な事であるとともに、欧米並みのスピードで国民に摂取して行くためには極めて重要な決断だと私は考えています。



市原市議会議員 **ますも誠二**

ひまつぶし
ますも誠二 月刊広報誌
Vol.71



ますも誠二の
救命ブログは
こちらから



これからの市原は スロベニアになる・・・ ごみゼロの日本の モデル都市へ



スロベニア首都リュブリャナ

今月の話は、市原市の近い将来像なのかもしれません。

自治体の取り組みが大成し、ごみの量を大幅に減らしたスロベニアの首都リュブリャナに今注目が集まっています。スロベニアとは、西はイタリア、南東はクロアチア、北東はハンガリーと国境を接する中央ヨーロッパの国。

スロベニアの中央に位置する首都リュブリャナ、人口は市原市とほぼ同じ28万人。

このリュブリャナ、2014年に欧州で初めて「zero waste」(廃棄ゼロ)を目標に設定しました。

当時すでに市内の分別ごみ回収率は60%に達し、1人あたりの年間ごみ排出量は150キログラム以下に抑えるなど、欧州のなかでも特に進んだ取り組みを見せ、2025年までに回収率を75%、1人あたりの年間ごみ排出量を60キログラムにするというさらに高い目標値を掲げたことで、欧州だけでなく、世界から関心を集めるようになったのです。

リュブリャナのごみ削減の取り組みはさらに「焼却炉」を消したのです！信じられますか？焼却炉がない街なのです。

それを可能にしているのが2015年に開業したリサイクル施設「RCERRO」。この施設はリュブリャナだけでなく周辺都市を含めた約70万人分のごみのリサイクルと処理を行います。運ばれてくるのは、市民が分別後に残ったその他ごみと生ごみのみ。

先端技術が活用されており、ここで

取り扱われるごみの97〜98%がアルミ、堆肥、燃料に生まれ変わっているという。埋め立てられるのは残りのたった**2〜3%のみ**。リサイクル可能な、パッケージ、紙、プラスチック、ガラスは直接リサイクル企業に運ばれ処理されているそうです。

さて、我が市原市もこれに近い事をしようとしています。国内初の素晴らしい取り組みです。市原市SDGs戦略として、工業地帯を持つる強みを活かした3つのリーディングプロジェクトを設定し、市民、企業、行政が一体となった市原発サーキュラーエコノミーがスタートします。サーキュラーエコノミーとは循環型経済の意味で、従来の**資源を採掘し、作って、捨てる**、というリニア(直線)型経済システムのなかで活用されることなく「廃棄」されていた製品や原材料などを、新たな「資源」と捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる経済の仕組みのことを指します。

当然このシステムが確立されれば、市原のごみは減り、ごみが減れば当然焼却炉の規模も小さくて済む。すなわち、今後の本市において、何百億もの予算をかけて計画されているごみ焼却炉の考え方も改めなければいけません。市民が分別という協働作業ができれば、予算の節約による新たな市民サービスと、美しい街を手に入れる事ができるのです。6月議会の質問はごみ問題に集中したいと思っています。

私のLINEのQRコードです。市原の課題、ご意見をお聞かせ下さい。今日動きます！

ますも誠二 プロフィール

氏名 増茂 誠二
生年月日 昭和42年12月1日
職業 歴 市原市議会議員
一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会副代表理事
国際医療福祉専門学校前副校長兼学科長
千葉市医師会非常勤講師
杏林大学保健学部非常勤講師
救急救命士 救急救命学修士
国士舘大学大学院救急救命システム科修士課程卒業
学歴 千葉大学大学院環境生命医学博士課程単位取得満期退学
剣道教士七段
その他 第19回極真空手千葉県マスターズカップ三位

ホームページもご覧ください。
<http://www.masumo-seiji.com> **ますも誠二** 検索

ゆる～いボランティアを一緒にしませんか!

楽しい仲間を作って、地域を良くするのが目的です。ボランティアはできる時にできる人でやりますので、ゆる～い団体です。

1時間の
ごみ拾い

夜間ウォーキング
防犯パトロール

災害ボランティア

なかよし同好会
080-1213-7679(増茂まで)